

# 1. 長期的な安定化シナリオ (1)

IPCC第4次報告書(第3作業部会)

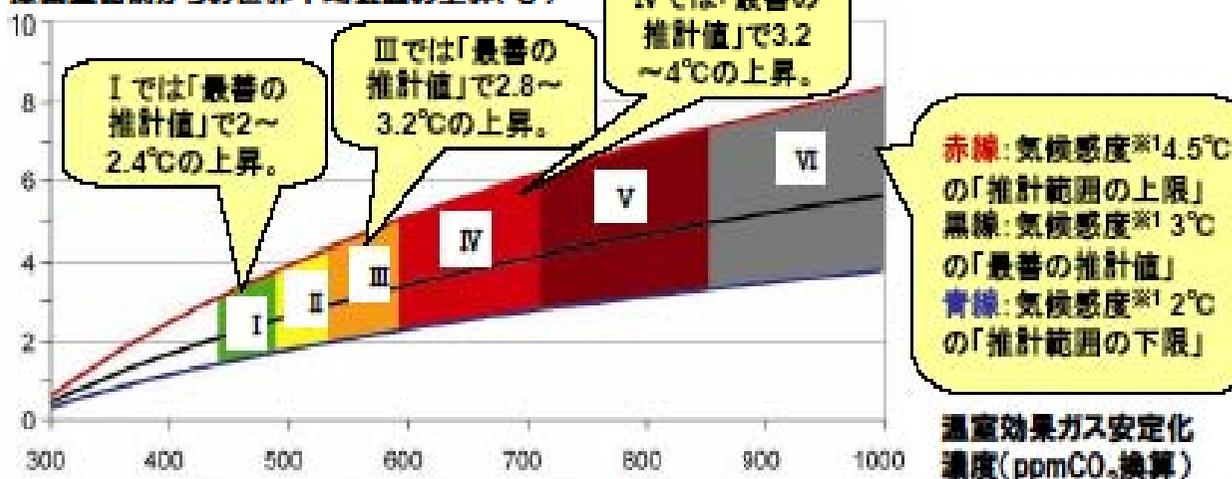
- 安定化レベルが低いほど、排出量のピークと減少を早急に達成しなければならない。■ ★★★★★
- 低いレベルでの安定化を達成するためには、今後20~30年での緩和努力が大きな影響を持つ。■ ★★★★★

出典:AR4 SPM

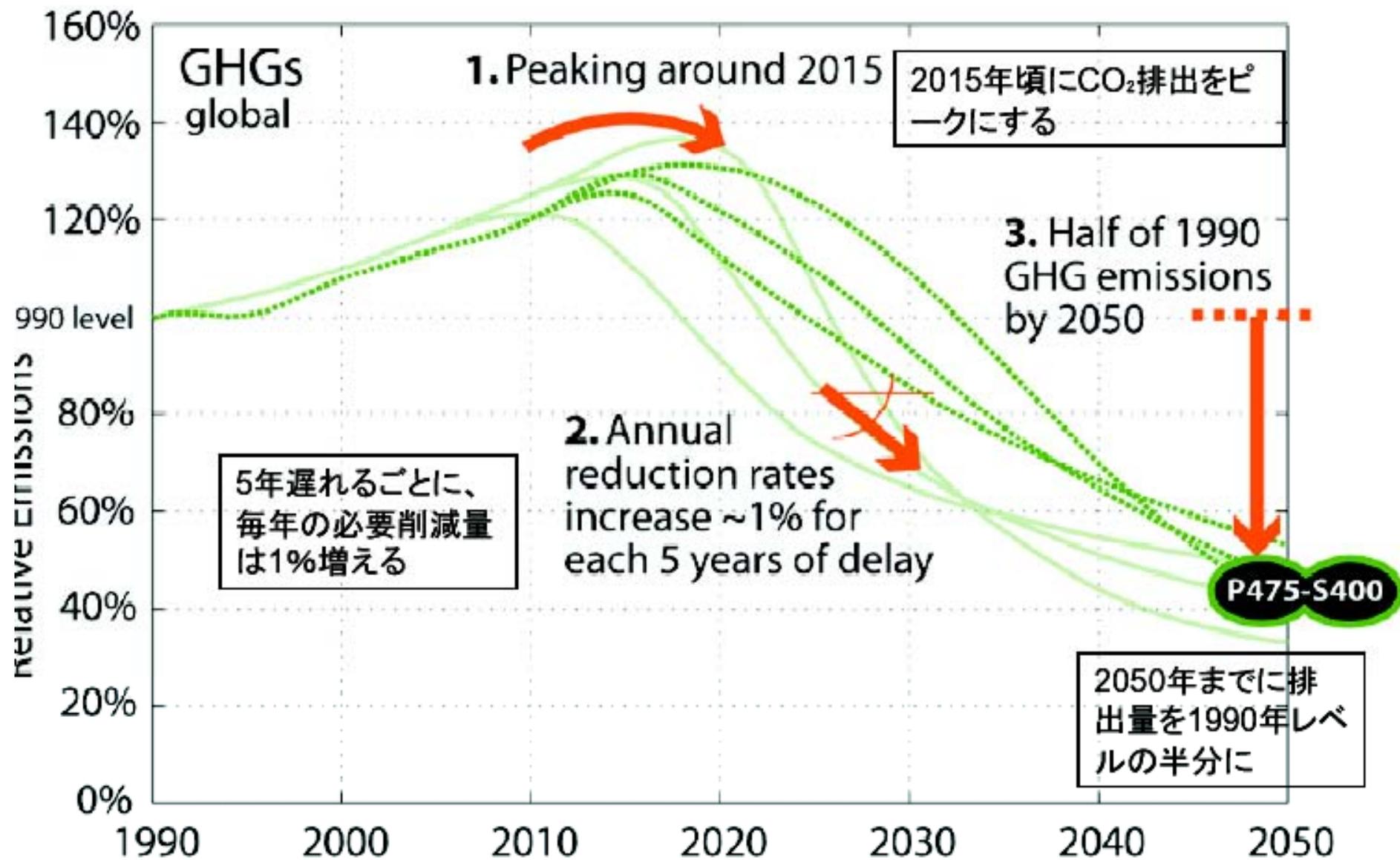
※1 大気中の二酸化炭素濃度が産業革命前の2倍になった場合の気温の変化。  
 ※2 正の放射強制力は地表面を暖め、負の放射強制力は地表面を冷やす。地球に出入りするエネルギーのバランスを変化させる影響力のことで、1平方メートルあたりのワット数で表される。  
 ※3 「最善の推計値」による産業革命前と比べた場合の世界平均気温の上昇幅。

## 6つの安定化目標とそれらの世界平均気温上昇値との関係

産業革命前からの世界平均気温の上昇(°C)



カテゴリー	放射強制力 <sup>※2</sup> W/m <sup>2</sup>	CO <sub>2</sub> 濃度 ppm	温室効果ガス濃度 (CO <sub>2</sub> 換算) ppm	産業革命前からの気温上昇 <sup>※3</sup> °C	CO <sub>2</sub> 排出がピークとなる年 年	2050年のCO <sub>2</sub> 排出 (2000年比、%) %	シナリオの数
I	2.5 - 3.0	350 - 400	445 - 490	2.0 - 2.4	2000 - 2015	-85 to -50	6
II	3.0 - 3.5	400 - 440	490 - 535	2.4 - 2.8	2000 - 2020	-60 to -30	18
III	3.5 - 4.0	440 - 485	535 - 590	2.8 - 3.2	2010 - 2030	-30 to +5	21
IV	4.0 - 5.0	485 - 570	590 - 710	3.2 - 4.0	2020 - 2060	+10 to +60	118
V	5.0 - 6.0	570 - 660	710 - 855	4.0 - 4.9	2050 - 2080	+25 to +85	9
VI	6.0 - 7.5	660 - 790	855 - 1130	4.9 - 6.1	2060 - 2090	+90 to +140	5
合計							177



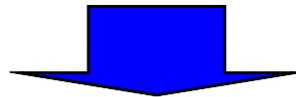
2007年11月18日 日経新聞

1. 気温上昇のほとんどは人間活動によってもたらされた。
2. 今後20~30年の努力と投資が温暖化ガスの安定化のカギとなる。
3. 温暖化ガスを抑えようとするほど、早期に排出量の削減に転じなければいけない。
4. 気候変動の影響はコスト負担を生む可能性がかなり高く、コストは気温上昇に伴い増える。
5. 温暖化を抑えるには2050年までに全世界のGDPの最大5.5% (約300兆円)のコストが必要。
6. 対策の厳しさに応じ、今世紀の気温は20世紀末で1.1~6.4度上昇。
7. 気温の上昇を2~3度に抑えなければ損失が拡大する。影響抑制には50年までに温暖化ガスの排出を半減させる必要がある。
8. 社会的弱者が温暖化の影響を受けやすい。

1. 地球の危機と人類存続の課題
2. リコーグループの環境経営
3. 京都議定書とポスト京都議定書

## 利益創出と地球環境保全の両立

「リグレット・ポリシー」か「ノンリグレット・ポリシー」か。



リコーは「ノンリグレット・ポリシー」で環境経営を進める。

そのためには、

- 環境保全は一過性ではなく継続的に実施し効果をあげる。
- 継続的に行っていくためには、利益を生み出せることが必要。
- 「利益創出と地球環境保全の両立」を図っていくことが大変重要。